令和２年４月１３日

ご利用者・ご家族　各位

清山会医療福祉グループ

代表　山崎英樹

（公印省略）

新型コロナウイルスの感染拡大にともなう

入所サービスのご利用について

　平素より当グループの運営にご理解とご協力をいただき、心より感謝を申し上げます。

さて、ご承知のように宮城県でも新型コロナウイルスの感染増加が伝えられております。当グループでは厚労省および宮城県・仙台市等の動向を注視しながら、感染想定訓練を実施するなどの対策を講じ、継続的にサービスを提供して参りました。

しかし、今後、感染爆発が起きるようなことになれば、医療崩壊は現実のものとなってしまいます。そのような中でサービスを維持し、継続するために、皆さまにもご理解いただきたいことがいくつか想定されて参りました。予め下記にお知らせとお願いを申し上げます。

　ご本人、ご家族の皆さまには不安な思いをされていることと存じますが、当グループとしても最善の努力をして参りますので、ご理解のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

記

１）ゾーニングについて

軽症者は自宅、宿泊施設、福祉施設等で療養することになるという通達が行政からありました。医療崩壊を防ぐために入院治療がいよいよ制限されていくことが予想されます。介護施設に入居中の高齢者が感染しても、施設内での療養を余儀なくされる可能性が高くなって参りました。

当グループとしては高齢者の命を守るための最善の方策として、施設の周辺地域で感染の流行がはじまったと判断された時点で、ゾーニングを開始することと致しました。

ゾーニングとは、感染区域と非感染区域を分離し、感染区域に適切な介護を提供すると同時に、感染の広がりを可能な限り防ぐことです。グループホームなら1ユニットすべてを、老健なら1フロアすべてを、感染区域として準備する必要があります。

これにともない、現在の居室からの移動にご協力いただかなくてはなりません。相部屋でお過ごしいただいたり、共用スペースをパーテーションで仕切ってベッドを運び込んだりすることも考えられます。2011年3月11日の震災の時ほどではありませんが、非常事態としてこれに類似した環境となりますことを予めご理解いただきたく存じます。

２）ご自宅への長期外泊について

当グループとしては施設内で最善の介護を提供し続ける覚悟ですが、もしも職員に感染が拡がった場合は深刻な人手不足に陥る可能性があります。併せて未就学児童や高齢者と同居する職員や基礎疾患を有する職員には予め相応の配慮が必要です。いざとなれば通所系事業所を閉鎖して人員を補充するつもりですが、明確に先を見通すのは困難な状況です。

さらに懸念されるのは、元気な子供や健康な成人は99.8％ が7日程度で免疫を獲得してよくなる一方で、80歳以上の高齢者は20日程度で10人に1人が亡くなるリスクがあるということです。万が一にも入居しておられる方が感染し、不幸にも重症化した場合、通常であれば救急搬送して適切な救命治療を行うべきですが、もし医療崩壊が起きていれば、そのまま施設で自然な経過を見守ることしかできません。ご希望があれば、ご家族には感染区域に宿泊しながら側にいていただくことも考えております。

こうした状況を踏まえ、総合的にお考えいただいた上で、ご本人とご家族がもしご自宅での療養を希望される場合は、長期外泊の手続きを取らせていただきますので率直にお申し出ください。

入居しておられる皆さまとご家族の皆さまとが、来年は笑顔で満開の桜を見上げることができますように、心から願っております。

ご不明な点がありましたら、下記までお問い合わせください。

医療介護部長　菊池　０２２－７７１－１８５２